

## 平成27年度 教員による自己評価について

文化幼稚園

平成27年度の当園の教員による自己評価をご紹介します。

評価方法は、4点法(4:とても思う 3:まずまずと思う 2:あまり思わない 1:全く思わない)で行ないました。評価内容は、教員としての良識や義務、教育内容及び指導計画、保育のあり方、保護者との連携、環境の構成など16の「評価分類」に分け、さらに細分化した81の「評価内容」について分類したものです。全体を通しての平均は3.6になりました。その中から特に重要と思われるものを選び、下の表にまとめました。表には各「評価分類」において、評価が最も高かったものと最も低かったものの「評価内容」について記載しています。

なお、教員ばかりでなく職種毎に他の職員も自己評価を行い、全体の平均評価は3.5となりました。

評価分類	評価内容	平均評価
園の教育理念・教育方針の理解	園の目指す幼児の姿を具体的にイメージできる。	3.9
	園の教育理念や教育方針を理解している。	3.8
環境の構成	安全で清潔感のある環境構成をしている。	3.8
	①楽しい雰囲気の中で安定して遊びこめる環境構成をしている。 ②幼児の活動がより豊かになるように、活動の展開に応じて環境を再構成している。	3.5
健康と安全への配慮	けがや事故には特に気をつけ、年齢に応じた適切な環境や言葉かけを行っている。	4.0
	幼児の体調や衣服の調整などいつも確かめている。	3.9
幼児のみとりと理解	幼児がいま興味や関心をもっていることがわかる。	3.8
	①幼児の話やサインを受けとめ、一人ひとりを観察している。 ②幼児同士のかかわりの姿を捉えている。	3.6
指導計画	幼児の実態などをもとに週案等作成している。	4.0
	地域の自然や文化施設・行事を指導計画に位置づけている。	3.2
保育のあり方と幼児への対応	幼児の理解のために保護者と話し合うようにしている。	3.8
	幼稚園教諭として専門知識や技能を身につけている。	3.3
保護者との情報交換	長欠や入院等の場合は見舞ったり、クラスの様子を伝える。	3.9
	①クラス運営や自分の考え方を知らせている。 ②クラスで取り組んでいる活動のポイントについて知らせている。	3.3
専門性に関する研修や研究	自分の保育については課題をもって計画と反省を行っている。	3.6
	自分なりの幼児観・保育観を確立する研修・研究をしている。	2.9
今日的課題	災害などの危機管理について、現状やあり方を常に意識し行動している。	3.4
	①障害のある幼児に対応する保育のあり方を学習している。 ②チーム保育について、その意義やあり方について学習している。 ③幼小連携など就学を見通した保育についてや、あり方について学習している。	3.2

評価項目が多岐にわたっており、すべてをご紹介しますが、自己評価の結果により教員一人一人が問題点を的確に把握・整理し資質向上に努めるほか、園全体としても「魅力ある幼稚園づくり」のための今後の改善策について見直しを図り、新たな取組に反映させていきたいと思っております。

今年度に関しては前年度に比べ改善された項目が多かったのですが、点数が低くなった項目もあり、これらについては速やかに点検し園全体の教育水準の向上に努めて参りますので、これからもよろしく申し上げます。